

幣を足るにむ猶地なり。古本無き哉。一日
の彩を見ても三月十八日多礼あり。

一八乙女巖窟

由良の浦あり。羽黒山旧記曰。景行天皇
二十年庚寅武内宿祢依。勅崇北陸神
祠時至由良巖窟而天樂響海陸宿祢敬
異而欲至窟中時鹽土老翁忽然出現問
曰何故來此即宿祢答曰依。勅宣崇北
陸神祠奇哉天樂響如何翁答曰巽嶺者
鸕鷀草薺不合尊鎮護之移峯也震巽者

王依姫基瑞呈場也。良頂者豐王姫有鎮
坐湖水旃茲奏伎樂告終而去宿祢奏帝
而創瑞籬千時景行二十一年辛卯六月
中立日崇神祠矣。是号皇納賀原三神云々
皇朝賀原の事ハ羽黒山の下の注に氏内
宿祢當處へ下向一ある年記ハ日本書紀と
お違ひ二十五年秋七月東宮へ下向一あり
二十七年春二月東宮より歸るをある事
系記に明白なり。三山雅集曰ハ乙女浦に
古羽黒岩現け而より瑞光を輝り一山頂小